

Oil Market Review 25第2号

2025年（令和七年） 4月11日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話（03）3534-7411（代）
FAX（03）3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ10階
ホームページ <https://oil-info.leej.or.jp>

■ 概況

当週（4月3日～9日）の国際石油市場は、2日の米国の関税政策の拡大（相互関税等）発表を受け、世界経済の後退懸念が発生、さらに、3日、OPECプラスは、自主追加減産の緩和方針の拡大を合意、需給緩和懸念は増大し、10ドルを超えて低下した。

NYのWTI原油先物市場は、3日、急反落の66.95ドルで始まり、8日まで4営業日続落し、59.58ドルまで低下したが、9日は5営業日ぶり反発の62.35ドルで終わった。

また、中東産バイ原油/東京市場（5月渡し）も、前週（3月27日～4月2日）は75.10～76.30ドルの範囲で推移したが、当週は、4月3日74.80ドル、4日71.80ドル、7日65.90ドル、8日66.30ドル、9日62.50ドルだった。

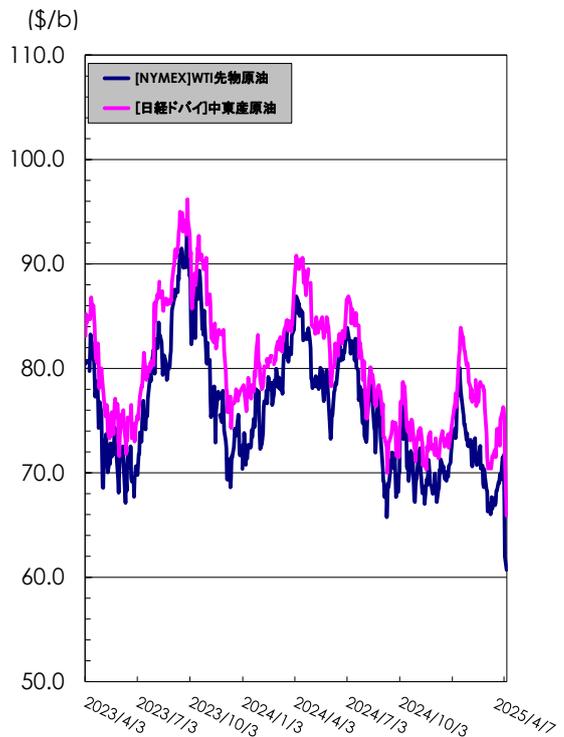
対ドル為替レート（TTM）は前週（3月27日～4月2日）149.52～151.11円の範囲で推移したが、当週は、4月3日147.83円、4日146.03円、7日145.78円、8日147.77円、9日145.38円だった。

財務省が4月8日に発表した貿易統計（速報・旬間）による

と、3月中旬の原油輸入平均CIF価格75,242円で前旬比517円安、ドル建てでは80.07ドルで前旬比0.36ドル高、為替レートは1ドル/149.40円。

そのような中で、4月7日時点の国内製品小売価格は、ガソリンが前週比1.4円高、軽油は同1.3円高、灯油は同20円高（18リットルベース）だった。ガソリンの全国平均価格は186.3円となった。4月10日～16日の燃料油価格激変緩和補助金の支給額は、4.4円（補助金がない場合の次週予想価格189.4円で、185円を超える補助率100%支給部分）と、実額ベースでは前週比1.4円の減額となった。

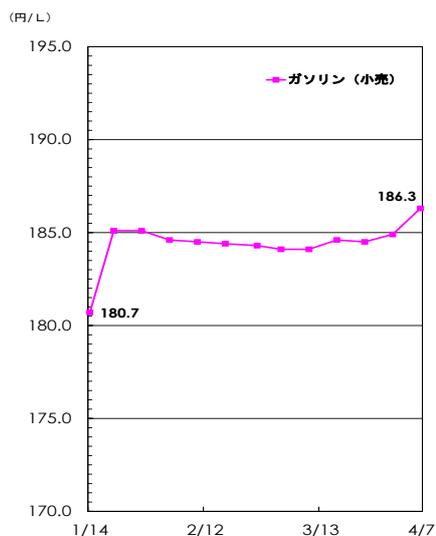
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	3/30 ~ 4/5	2,809 ▲ 108	▲ -
	トッパー稼働率 (%)	"	81.1 ▲ 3.1	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	4/5	10,422 ▼ -913	▼ -
価格	中東産原油(日経バイ) (\$/bbl)	4/7	65.90 ▼ -10.00	▼ -23.7
	WTI先物原油(NYMEX) (\$/bbl)	4/7	60.70 ▼ -10.78	▼ -25.7
	原油CIF単価 (\$/bbl)	3月中旬	80.07 ▲ 0.36	▼ -3.01
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	75,242 ▼ -517	▼ -2,849
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	149.40 ▲ 1.70	▲ 0.04
	外国為替TTSレート (¥/\$)	4/7	146.78 ▲ 3.74	▲ 6.02



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比
需給	在庫	4/5	1,595 ▲ 36	▼ -
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 4/1 ~ 4/7	89.2 ▲ 1.2	▲ 6.6
価格		(TOCOM/中部) 4/7	90.0 ▲ 2.0	▲ 8.0
	小売 [週動向]	(資工庁公表) 4/7	186.3 ▲ 1.4	▲ 11.3

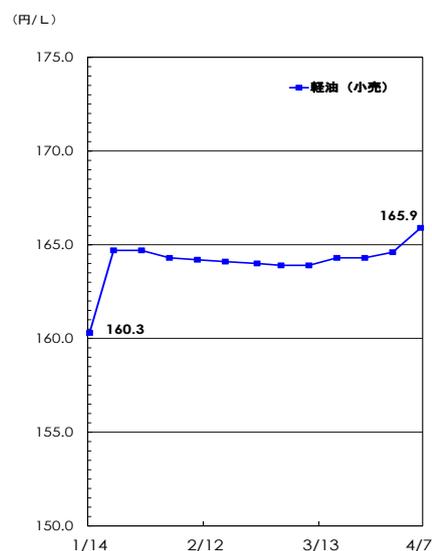
※先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

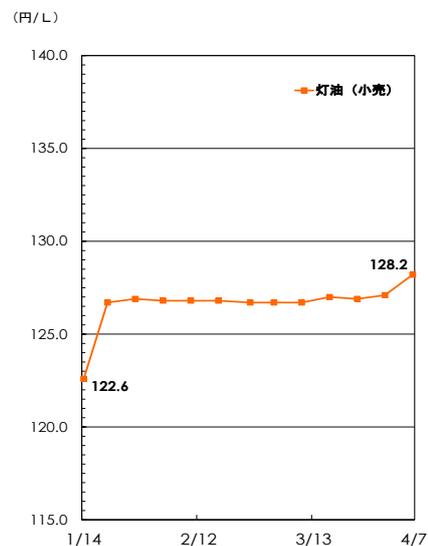
軽油		今週	前週比	前年比
需給	在庫	4/5	1,295 ▲ 45	▼ -
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 4/1 ~ 4/7	94.9 ▲ 1.7	▲ 10.6
価格		(TOCOM/中部) 4/7	-	-
	小売 [週動向]	(資工庁公表) 4/7	165.9 ▲ 1.3	▲ 11.2

※先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比
需給	在庫	4/5	1,462 ▲ 58	▲ -
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 4/1 ~ 4/7	89.2 ▲ 1.2	▲ 6.2
価格		(TOCOM/中部) 4/7	92.0 ▲ 1.5	▲ 9.0
	小売 [週動向]	(資工庁公表) 4/7	128.2 ▲ 1.1	▲ 11.2



■ 関連情報

1 海外/原油（WTI原油先物市場）

前週（3月27日～4月2日）のNYMEX・WTI先物市場は69.36～71.71ドルの範囲で推移した。

当週、4月3日は、前日のトランプ政権による一律10%の輸入関税賦課に加え、対日本24%を含む69カ国対象の「相互関税」賦課の発表を受け、「関税戦争」の発生懸念、世界経済の後退（リセッション）懸念が増大、大幅に反落した。さらに、OPECプラスは、WEB会議で、追加自主減産緩和を加速、5月以降の既存方針の約3倍の増産に当たる41.1万BDとする方針で合意し、価格低下を加速させた。5月物終値は、前日比4.76ドル安の66.95ドル。

週末4日も、前日からの流れを受け、世界経済の後退懸念が拡大、各国株式市場も暴落、さらに、中国は対米の「報復関税」を発表し、大幅続落した。5月物終値は前日比4.96ドル安の61.99ドル。

週明け7日は、米関税政策をめぐる世界不況、リセッション懸念拡大で、3営業日続落した。一時は、60ドル台を割り、2021年4月以来の安値を記録した。5月物終値は前日比1.29ドル安の60.70ドル。

4月8日は、中国は「最後まで戦う」として米国に「報復関

税」を宣言、米国も中国に追加の関税で対応するなど関税をめぐる対立は激化、世界経済の後退懸念はさらに増大し、4営業日続落、終値で60ドルを割った。ただ、この日、トランプ大統領は、ネタニエフ首相との会談冒頭、12日からオマーンでイランとの核合意をめぐる直接交渉を開始する旨発言、米国とイランの緊張はやや緩和した。5月物終値は同1.12ドル安の59.58ドル。

9日は、トランプ大統領が、中国を除き、各国に対する「相互関税」の適用を90日間一時停止するとSNSで発言、関税不況懸念が後退し、5営業日ぶりに反発した。なお、米国の石油在庫報告は、原油は積み増しだったが、製品は取り崩しだった。5月物終値は同2.77ドル高の62.35ドル。

2 海外/米国石油市場

米国エネルギー情報局（EIA）による4月9日発表の4日現在の米国在庫週報によると、原油在庫は前週比260万バレル増の積み増しとなったが、ガソリン在庫160万バレル減、中間留分在庫350万バレル減と、製品在庫は取り崩しとなった。

EIAによると、4月7日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比8.1セント高の1ガロン3.243ドル（127.3円/ℓ）と3週連続の値上がりで、ディーゼル小売価格は、前週比4.7セント高の1ガロン3.639ドル（142.9円/ℓ）と3週連続の値上がり。

ベーカーヒューズ社によると、4月4日時点で、米国内の稼働陸上石油掘削装置は、前週比5基増の489基となった。

3 国内/原油処理量

石連週報によれば、2025年03月30日～04月05日に休止したトッパー能力は26.9万バレル/日で、前週に対して15.2万バレル/日減少した（全処理能力は311.0万バレル/日）。

原油処理量は280.9万klと、前週に比べ10.8万kl増加。前年に対しては9.6万klの増加。トッパー稼働率は81.1%と前週に対して3.1ポイントの増加、前年に対しては5.6ポイントの増加となった。

4 国内/製品在庫量

4月5日時点の在庫は、ガソリン、ジェット、灯油、軽油、C重油で積み増しとなり、A重油は取り崩しとなった。

ガソリンは159.5万kl、前週差3.6万kl増。前年に対しては3.9万kl少ない。

灯油は146.2万kl、前週差5.8万kl増。前年に対しては41.0万kl多い。

軽油は129.5万kl、前週差4.5万kl増。前年に対しては2.4万kl少ない。

A重油は69.3万kl、前週差2.9万kl減。前年に対しては5.9万kl多い。

C重油は165.7万kl、前週差2.6万kl増。前年に対しては11.5万kl少ない。

(単位：千KL)

	今週 (4/5)	前週 (3/29)	前週比	
ガソリン	1,595	1,559	▲ 36	(2%)
ジェット燃料	654	648	▲ 6	(1%)
灯油	1,462	1,404	▲ 58	(4%)
軽油	1,295	1,250	▲ 45	(4%)
A重油	693	721	▼ -28	(-4%)
C重油	1,657	1,632	▲ 25	(2%)
合計	7,356	7,214	▲ 142	(2.0%)

5 国内/元売会社製品卸価格

4月1日～7日のドル建て中東原油価格は前週比値下がりし、為替レートも円高で、元売会社の卸建値は値下げされたものと見られる。補助金は1.4円の減額となり、4/10からの実質卸価格は値下がりとなる模様。

6 国内/製品小売価格

4月7日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比1.4円高の186.3円、軽油は同1.3円高の165.9円、灯油は18%ベースで同20円高の2,308円(1%ベースでも1.1円高の128.2円)。ガソリンは2週連続の値上がり、軽油も2週連続の値上がり、灯油も2週連続の値上がりだった。ガソリンについて、都道府県別には、値上がりが45都道府県、横ばいが1県、値下がり1県だった。全国最安値は岩手県の181.3円、その次は愛知県県の181.7円であった。他方、最高値は鹿児島県の194.5円。最も値上がりしたのは佐賀県(同3.2円高)、値下がりしたのは福島県(同0.5円安)だった。

次回調査時(4/14)のガソリンの小売価格は、小幅な値動きが予想される。

(単位：円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (4/7)	前週 (3/31)	前週比	直近高値
レギュラー	186.3	184.9	▲ 1.4	23/9/4 186.5
灯油	128.2	127.1	▲ 1.1	08/8/11 132.1
軽油	165.9	164.6	▲ 1.3	08/8/4 167.4

※ 現金一般価格の全国平均値(消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2004年6月以降の最高値。

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.iej.or.jp>) に掲載しています。
次回 (2025第3号) の公表は、4/18 (金) 14:00 です。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報 (以下、併せて「ドキュメント」) に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター (以下、当センター) 又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

当センターでは、平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告を受けて、石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力のもと、石油関係者、企業の経営者の方々から一般消費者の方々まで、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟 (石連) 「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

②【原油価格】〈WTI先物原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所 (New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、日本経済新聞掲載の東京スポット市場 (取引の中心限月) の午後の中値を採用。※一般に、中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格が指標とされる。

為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM

(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値) を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値) を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社 (一次卸) と系列特約店など (二次卸) との間で売買される卸価格。

④【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用 (資工庁公表)。原則として、毎週 (月) 時点の価格を調査し (水) 14:00に公表 (資源エネルギー庁HPに掲載)。